

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

No.8

March 2016



海外支援・交流活動

- エリトリア・草の根交流スタート
第三回視察訪問
- ネパール大震災支援で
こどもたちに制服をプレゼント
- ブータン留学生来日
- SEISA Africa・Asia Bridge
2015 開催
- アグラサーラ縫製工場
オープニングセレモニー開催



東日本大震災支援活動

- ブリュッセル弦楽四重奏団
チャリティーコンサート開催
- 北の大地に会いに行こう
- サッカー交流実施報告
- 医療支援班報告
- 相馬地区特別講座報告
- FGC 活動報告会開催





エリトリア国との 草の根交流スタート

北京、ロンドンと過去2回のオリンピック・マラソンに出場し、リオデジャネイロ大会のマラソン候補選手であるヤレド・アスメロン選手が2016年2月に来日しました。目的は星槎AC（アスレチック・クラブ）の選手として青梅マラソンに出場することでしたが、大会終了後のわずかな日程を割いて、事前キャンプ協定書のパートナーである神奈川県自治体との友好イベントに参加してくれました。2月23日には星槎グループの青葉台保育園・幼稚園およびティンクルくぬぎ坂保育園を訪問しました。園児達は外国のオリンピック選手に会える喜びに数日前から興奮し、当日は「ヤレドさん」、「ヤレドさん」の歓喜で出迎えてくれました。その後、園庭で一緒に走ったり、ヤレド選手が鬼になって鬼ごっこをしたりして楽しい時を過ごしました。「どうしたら足が速くなれるんですか?」と園児から問われたヤレド選手は、「まじめに毎日練習すれば必ず強くなれる」と激励の言葉をかけていました。

翌日には、星槎中学校・高等学校も訪問し、ストレッチの指導や生徒達とのランニングを行ないました。最後に、「将来の夢」と「2020年に向けエリトリア国への応援メッセージ」を書いた紙飛行機を皆で作って一斉に飛ばしました。

両日とも多忙なスケジュールでの限られた時間でしたが、エリトリア国への理解が草の根レベルで進んだ時間でもありました。今後とも同様の企画を関係自治体、協働者と企画し、行なっていきます。このよう



青梅マラソンでは4位入賞を果たしました



オリンピックと一緒にかけっこ!

にして、エリトリア、ひいてはアフリカが日本にとり、より身近に感じられるようになり、両国の友好が人々の中に芽生えて行くことが期待されます。(FGC 小泉博)



園児たちが大歓迎してくれました



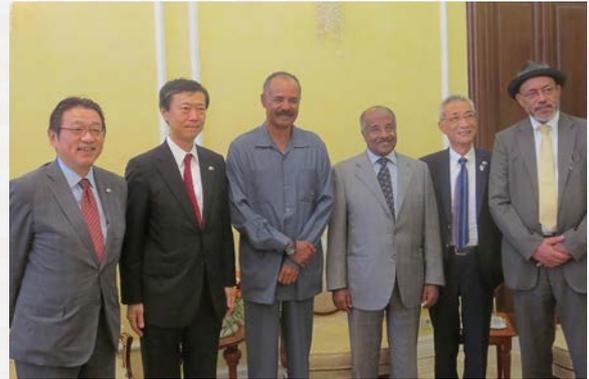
エリトリアへの応援メッセージと未来への夢を紙飛行機にのせて



第3回視察訪問 具体化する協力・支援

2015年10月15日（木）から10日間、宮澤専務理事がエリトリアを再訪しました。この訪問に合わせて外務省からは丸山アフリカ部長にも首都アスマラを訪問していただき、イサイアス大統領、オスマン外務大臣、ゲルギス国家開発大臣等政府要人を表敬訪問しました。エスティファノス在日エリトリア大使もこれに合わせて一時帰国され、エリトリア側の日本及び世界子ども財団への期待の大きさを物語っていました。

エリトリア・プロジェクトについては前年9月以来3度目の訪問となり、使節団の来日も3回を数えているので、今回のエリトリア側との協議は実務的かつスムーズに進みました。オリンピック委員会とは、ジム施設の設置状況とリオデジャネイロ・オリンピックへの準備進捗について説明を受けました。課題としては、女子の競技参加がまだ十分でないとの件が上がりましたので今後検討して行く事となりました。パラオリンピック委員会では新たに設置中のリハビリ兼トレーニングジム施設の案内を受け、東京パラリンピックに向けて参加競技を早急に決定すること、そして選手育成について協働することを約しました。陸上競技連盟とは、以前より協議していた日本留学に関し、高校生年齢の学生を対象に選考が進んでいること、また日本陸連が行なう強化合宿へエリトリア選手を派遣する件について協議をおこないました。続いて自転車競技連盟とのミーティングも行い、国民的スポーツとして男子選手の養成は進み、実績が上がって来ているが、



イサイアス大統領を表敬訪問（丸山アフリカ部長とともに）

女子選手の育成・強化が長年の課題として残っている旨述べられ、今後協議していくことになりました。

今回の滞在では併せてエリトリアで唯一医療従事者の養成を行なっているオロッタ医科歯科大学のハイレ学部長とも面会し、現状の課題及び将来構想について意見交換をおこないました。それを受け、2016年春を目処に医療関係者数名を日本へ招聘し、日本の専門家と直接討議する機会を設け、今後の支援につなげる事が約されました。また、交通・通信省も今回初めて訪問でき、通信技能者養成分野での協力事項について今後協議して行く事となりました。上記のように会談は全て実務的かつ具体的なものとなって来ていますので、今後のエリトリアとの協力関係はより幅広く、個々のプロジェクトもスピードアップしていくと期待されます。

実際、帰国後もエリトリア・プロジェクトは活発に展開しており、現地にて協議した日本陸連主催の強化合宿にエリトリア選手3名、コーチ1名及び役員1名の参加が正式に決定しました。また、エリトリア陸上界の実力が認められつつあることもあり、2015年12月の福岡国際マラソンに2名、今年2月の別府大分マラソンに1名、東京マラソンに1名エリトリアから招待選手として参加しています。

色々な分野で日本におけるエリトリアの認知度はあがってきていますが、FGCの支援がこれに大きく寄与しています。
(FGC 小泉博)



ギルマイ選手（2015北京世界陸上マラソン優勝者）から歓迎を受ける

アンデメスケル・パラオリンピック委員会会長と





ネパール大震災支援 募金活動の報告

ネパール向けに皆様からいただきましたご支援を、現地在住の星槎大学生を通じて被災地へ届けました。当該大学生よりお礼と報告をいただきましたので、以下掲載させていただきます。

昨秋、ドラカ郡の学校、4歳～16歳の学生625人に新しい制服を届けてまいりました。現地のNGOマダン・クマリ・カレルメモリアルトラスト、教員、村人の協力で、こどもたち、一人一人のサイズを計り、仕立てることができました。制服を届けに行った当日は、現地の学校でこどもたちの歌や踊りなどであたたかい歓迎を受けました。

こどもたちはいまだにトタン屋根の仮の校舎で限られた環境で勉強をしていましたが、制服を受け取った時はとても嬉しそうに笑顔を見せてくれました。新しい制服の匂いを臭いで、大事そうに家に持ち帰っていたこどももあり、父母の方からも多くの感謝の言葉をいただきました。このようにこどもたちの喜ぶ笑顔が見られたことは、多くの皆様からいただいたご寄付によるものです。皆様の心のこもったご支援、誠にありがとうございました。

ネパールの村のこどもたちは学校が大好きで、毎日着ていく制服はきれいに洗っていつも大事にしています。震災で家が壊れ、身の回りのもの全てが瓦礫の下になってしまい、現在も続いている度重なる余震によりまだ、損壊した家や物はそのままになっています。壊れた学校もそのままの状態、別の場所に仮のトタ

ンで作った建物で学校を再開していますが、まだまだ学習環境は整っていない状況にあります。

2016年もドラカ郡のチベットとネパールの国境近くにある、先住民の村に制服を届けたいと考えています。この村も地震により村は壊滅的な被害を受け地震後に道路が山崩れで崩壊してしまい、陸路で支援に行くのが大変な地域です。震災6ヶ月後に1日歩いてこの村に行きましたが、被災された方々の生活はまだまだとても厳しい状況でした。

ドラカ郡はヒマラヤ山脈の近くに位置しているため、冬期は非常に寒さが厳しい山岳気候です。こちらの地方の家屋の壁は土壁で冬は暖かく、夏は涼しいという利点がありました。しかし大地震により村の家は全て崩壊してしまい、今はトタンでできた家に住んでいます。そのため今年の冬は非常に寒くつらい生活を送っています。今年の冬は寒さから風邪や病気になるこどもや村人も多く、病院もないため、病を患っている人が多くいるということです。このような村には一日も早い村の復興が必要となっております。

今後も被災地のこどもたちが安心して学業を続けられるよう、また被災地の村人ひとり一人の支えとなるように、息の長い支援を全力で行っていきます。

今回のご支援にご協力いただきました全ての皆様にご場をお借りし深く御礼を申し上げます。

さらに皆様のあたたかいご支援、ご協力をよろしくお願い致します。
(現地在住 星槎大学生)





ロイヤルティンブーカレッジの 交換留学生来日

国民総幸福量（GNH）を提唱し、経済的・物質的な豊かさ以上に「心の豊かさ」を大切にしている国、ブータン。世界子ども財団、星槎グループではお互いの発展的交流を目的として、長年にわたり同国との友好を深めてきました。特に星槎大学の姉妹校でもある Royal Thimphu College（RTC）との交換留学プログラムでは毎年 10 名の短期留学生を受け入れ、今年で 5 回目を迎えました。2016 年は日本とブータンの外交 30 周年にあたり、この交換留学プログラムは、外務省より記念事業としての認定を受けています。

今年は 1 月 31 日に、10 名の学生と 1 名の引率の先生が来日。10 日間のプログラムの中で、星槎の生徒や職員と交流したり、また日本の文化やテクノロジーについて学んだり、さまざまな体験をしました。

2 月 2 日には大磯キャンパスを訪問、宮澤保夫会長を表敬訪問し、TV 会議を利用して行った「全国交流会」では、12 会場の学習センター・学園が参加、それぞれの会場を中継し「幸せを感じる時」について発表、全国の星槎の生徒と意見を交わしました。星槎の生徒はゾンカ語のあいさつを覚えて RTC の留学生を迎え、RTC の留学生はサプライズとしてブータンの伝統的なダンスを披露し参加者を楽しませてくれました。その他にも、宿泊先の星槎高尾キャンパスでは生徒たちとのスポーツ交流を行ったり、星槎大学横浜事務局では教職員総出でウェルカムパーティーを開催しました。



星槎高尾キャンパスで日本の着物を体験

日本の文化体験としては、鎌倉の建長寺や鶴岡八幡宮、小金井の江戸たても園を訪問し、日本の伝統的な寺院や建造物に触れ、「星槎の歌」や「ふるさと」をみんなで歌ったり、書道に挑戦したり、着物の着付け体験も行いました。日本が誇る最新の技術について知ってもらうため、東京パナソニックセンター（リスピア）、古川メガソーラー（太陽光発電所）を訪問、製品や技術について説明を受けました。

留学生たちは充実した 10 日間を過ごし、初めて訪れる日本での「もの・人・自然」との出会いを楽しみ、感銘を受けていました。私たちも彼らの心の豊かさを大切にする姿勢や、自国を愛する想いから多くのことを学びました。RTC との交流プログラムは、3 月に行われる星槎大学からの共生フィールドトリップでのブータン訪問を含め、今後も毎年継続していきます。そしてブータンと日本がさらに交流を深め、お互いから学べるよう努めていきます。（星槎大学 寺田啓高）



星槎の生徒たちと記念撮影



全国交流会で「幸せを感じる時」についてディスカッション



SEISA Africa・Asia Bridge 2015 開催



アフリカの17カ国からのゲストが勢揃いした開催式

2015年11月15日（日）、星槎中学高等学校（横浜市旭区）にて、SEISA Africa・Asia Bridge 2015を開催しました。

当日は17のアフリカの国々の方が参加、各国の公使、留学生、オスマン・サンコンさん、また外務省のアフリカ部長ほか多くのおみなさんにもご出席いただきました。アフリカ各国を紹介するブースでの展示や販売、二つのステージでのアフリカンダンスや音楽のパフォーマンス、アフリカ料理を味わうフードエリアなど、盛りだくさんの楽しいイベントとなりました。生徒たちも自分たちでテーマを決めてアフリカについて学んできたことを展示・発表するとともに、留学生はじめさまざまなアフリカの人々と交流をすることができ、まさにアフリカを「知る・感じる・考える」ことのできた一日となりました。

FGCは主催団体のひとつとして、江口研二理事長が出席したほか、ブースを設置し、日頃の活動について来場者のみなさんにご紹介をしました。

午前中の悪天候にもかかわらず、5,000人を超える方々にご来場いただき、アフリカと日本だけでなく、参加したアフリカ各国間の親交も深めることができました。

午後には天候も回復し、美しい夕日の中、野外ステージにアフリカからの留学生が登壇、来場者や生徒と「We Are The World」を歌い、宮澤保夫専務理事の「これからの世界を変えるのは、みんなだよ！」とい

う熱いメッセージとともに、感動的なフィナーレを迎えました。

「共に生き、共に前へ」というサブテーマにあるように、FGCと星槎グループは今後も、2020年の東京オリンピック／パラリンピック競技大会へ向けて、アフリカ・アジアの国々がお互いをより理解し、交流を深めるための取り組みを続けていきます。

ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。（FGC 石井洋祐）



We Are The World! 留学生たちと来場者、生徒たちが共に歌いました



世界でも財団のブースでは、活動紹介や商品の販売をしました



アグラサーラ縫製工場 オープニングセレモニー開催

バングラデシュのアグラサーラ孤児院にて2月6日、縫製工場「SEISA SEAGULL AGRASARA GARMENT」のオープニングセレモニーが開催され、世界こども財団から井上一評議員、星槎大学からスマナ・バルア特任教授が、株式会社矢部プロカッティングの矢部亘社長と共に出席しました。セレモニーでは出席者および宮澤保夫専務理事に、感謝状と花が贈呈されました。

バングラデシュの国会議員も出席するなど大変盛況で、地域からの縫製工場プロジェクトへの期待の大きさを改めて感じました。孤児院のこどもたちはこのセレモニーのためにみんな揃って出席者を迎えてくれ、準備を手伝い、歌や踊りも披露してくれました。動き出したプロジェクトに目を輝かせているようでした。

このプロジェクトは厳しい状況でも明るく生きているこどもたちと孤児院を支援するため、星槎グループおよび世界こども財団と矢部プロカッティングが共同で進めているものです。縫製工場の操業と現地の縫製技術研修により、孤児院の自立運営、そしてこどもたちが手に職を得て自立する場所となるよう、今後も継続的な支援を行なっていきます。(FGC 石井洋祐)



宮澤保夫会長、井上一本部長に感謝状が贈呈されました



アグラサーラの小学校のこどもたち

操業を開始した縫製工場働くスタッフのみなさん



東日本大震災復興支援活動報告

ブリュッセル弦楽四重奏団チャリティーコンサート in 北海道



モーツァルトやシューマン、ラヴェルの弦楽四重奏曲を演奏

大震災の原発事故の影響を受ける福島県相馬市のこどもたちを北海道に招待して、大自然の中で活動の場を提供する「北の大地に会いに行こう」プロジェクト。このプロジェクトを支援するため、ブリュッセル弦楽四重奏団を招待し、2015年10月30日と31日、帯広（とかちプラザ）と札幌（大谷記念ホール）で東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを開催しました。モーツァルトやシューマン、ラヴェルの弦楽四重奏曲に加え、アンコールでは日本の唱歌「浜辺の歌」などを披露していただきました。両会場とも300名弱の来場者を迎え、カルテットの素晴らしい演奏に酔いしれた約2時間となりました。

コンサート当日には募金活動を行い、帯広・札幌両会場で、合計40万515円ものご厚志を賜りました。

ご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(FGC 石井洋祐)



星槎国際高等学校 札幌学習センターの生徒による手作り募金箱

北の大地 2015 冬

2015年12月23日～29日、福島県相馬市の小学生43人と保護者2人が、北海道芦別市にある星槎国際高等学校本部校にやってきました。2012年から世界子ども財団、星槎グループと芦別市が共催している東日本大震災の避難者受け入れ支援事業「北の大地に会いに行こう」の冬期コースで、今年5回目になります。

23日に相馬市を出発し、フェリーとバスを乗り継いで翌24日に芦別市に到着。今野宏市長らが出迎え歓迎式を行いました。最初のプログラムは「クリスマスケーキづくり」。グループごとに工夫しながら、世界で一つだけのクリスマスケーキを完成させました。

今回のプログラムには、北海道の冬を満喫できるプログラムをたくさん用意しました。1つ目は「雪遊び」。今年の芦別市は例年になく積雪が少なく、少ない雪でも楽しく遊ぼうと「ミニ雪だるまプロジェクト」を学校のグラウンドで始動。それぞれかわいい雪だるまを作りました。雪だるまづくりが終わると、雪合戦。広いグラウンド中をみんなで走り回っていました。

2つ目は「スキー体験」。芦別は雪不足でスキー場が使用できなかったため、バスで1時間ほどの新十津川町の「そっち岳スキー場」でスキー体験を行いました。

当日は雪が降り続く天候でしたが、全員が何度もリフトに乗り頂上から楽しく滑ってくることができました。

最後は、「雪原ウォーク」。木の枝とロープでかんじきを作り、外へ。あいにくの吹雪模様でしたが、手作りかんじきで雪の中を走り回っていました。

今回は星槎国際高等学校本部校の生徒会役員も1企画。星槎の実習農場「星の島」の羊の毛を利用して羊毛クラフト体験を行いました。高校生が先生役で優しく指導。かわいい雪だるまのマスコットが完成しました。参加した高校生は、夜もバルーンアートで子どもたちを楽しませてくれていました。

芦別での最後の食事は、毎回恒例の「大バイキング昼食会」。北海道名物の豚丼や星槎のシェフが作るパスタ、芦別市役所の方が焼いてくれたたこ焼きなどメニューは盛りだくさん。今回の北の大地に会いに行こうを応援してくれた方々も含めて大人数での大昼食会となりました。

今回も6泊7日、事故なく、笑顔があふれる「北の大地に会いに行こう」になりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

(星槎国際高等学校 森加緒利)



被災地のこどもたちへのスポーツ支援、サッカーを通して5年



2015年11月28～29日、2016年16日～17日それぞれ2日間、福島県相双地区のこどもたちへのサッカー活動支援を実施しました。1月は除雪に追われるハプニングもありましたが、協力者の皆様の温かいご支援のおかげで無事開催することができました。このように毎回困難はありながらも、震災発生の年から始めたこの活動も、5年目を迎え、今年度も例年通り年3回実施することができました。

それぞれ初日午前中に「星槎奥寺カップ」を開催しました。U-11部門では11月が12チーム、1月が16チーム、U-9部門では11月・1月とも7チームが参加しました。小学校低学年の試合は、団子状態の選手の絡み合いになるかと思われましたが、しっかり試合になっていて、コーナーからセンタリングを上げシュートにもっていったり、大人を驚かせるようなドリブルをする姿も見られ、レベルが上がってきていることを実感させてくれました。高学年は声をしっかり出し、チームとしてまとまりのあるプレーができていました。出場チームは今回、福島ばかりでなく、近隣県からも来ており、大きな広がりを見せてくれました。ゆくゆくは北関東も巻き込んだ東北全県に広がり、サッ

カーを通してこどもたちの笑顔が更に広がって行くことが期待されます。

引続いて午後には、指導者講習を開催しました。特に11月には奥寺氏が講師に加わり、ドイツ・ブンデスリーガ仕込みの実践的テクニックを伝授していただきました。参加者からは「まずは指導者が初心に戻り、楽しさや厳しさを体感することが重要」との声も聞こえ、皆さんこどもに帰ったように真剣な表情で講習に参加していました。

2日目は朝から全体でのスクーリングが行なわれました。11月には小学1年生から6年生までの147名、1月には220名がそれぞれ参加しました。指導者たちが前日の講習で学習したことを実践に移してこどもたちを指導していました。いつもとは異なる指導に、こどもたちの反応もイキイキとしていて、ウォーミングアップ中から笑い声が盛んに聞こえていました。こどもたちからは「楽しかった!」と多くの声をもらい、指導者の皆さんにとっても励みになったようです。

また、保護者向けに別途ヨガ教室も開催し、日常からしばし離れ、こどもたち同様リフレッシュしていただけたようです。(星槎グループ本部 小柳浩二)

放射線説明会

震災後、世界子ども財団医療支援班の一員として福島県相双地区での活動を開始してから、もう少しで5年になります。内部被ばく・外部被ばく検査は、震災から5年近くになる現在も、希望者に検査器が配布されたり、学校検診と連携して体内の放射性物質の有無を定期的に検査できる体制になっています。

以前の報告とも重複しますが、2016年現在、子どもたちの体内から原発事故によって飛散した放射性物質が検出される状況ではありません。南相馬市の小中学生は年に2回、成人は年1回の内部被ばく検査が行われていますが、放射性セシウムを検出することはまずありません。体内から放射性物質を排泄できること、現在流通している食材の放射能汚染がほとんどないからです。特定の汚染されやすい食品は既に判明しており、そのような食材を未検査で摂取するようなことが無い限り、内部汚染はほとんど起きません。

外部被ばく線量も徐々に低減し、2015年度の相馬市のガラスバッジ検査では、小児の外部被ばくは国が到達目標としている年間1mSv以下を全員が達成しました。もう他の地域の放射線量と変わらない程度に減弱しており、この放射線量で健康影響があるかもしれないと議論すること自体が不可能なレベルです。

もちろん、帰宅困難区域や居住制限区域といった、人が住めないとされる地域がまだまだたくさんあることも事実です。しかしながら、一般の住民の方が現在居住している場所で多くの被ばくをしている、という状況では既ありません。

その一方で、新しい問題も浮上しています。例えば肥満であったり糖尿病であったり、生活習慣病は悪化の一途を



たどっています。糖尿病は万病の元となり、多くの癌などの原因にもなります。既に住民の方々にとって放射線よりも糖尿病の方が健康リスクとして数十倍高いことが判明しています。

そのような生活環境の変化に加えて、生活再建に関わる問題、例えば家族がバラバラになってしまった、職業が変わった、つきあう人間が変わった、未来への希望が描きづらくなった、生活スタイルが変化した、高齢化などの周辺環境の変化が及ぼす影響も大きいのです。

住民の健康に影響を与えているのは、医学的には結局のところ放射線ではありません。放射能汚染や被ばく量の話ばかりが福島県外では話題になり目を引くのかもしれませんが、現場の問題は既に原発被災地だけに特殊な状況では無く、日本のいわゆる「田舎」にユニバーサルに起こっているような問題に近づいてきています。大変な状況であることに変わりはありませんが、その中にも光があり、それに向かって皆で進んでいます。まだまだ試行錯誤が続いています。是非温かい目で見守っていただくことが出来ればと思っています。

(FGC 医療支援班 南相馬市立総合病院内科医 坪倉正治)

相馬講座レポート

相馬高校特別講座は東日本大震災や原発事故により、多くの困難に直面した相馬地方の高校生支援を目的に2013年5月より始まりました。これまで講師など52名が奉仕に参加し、受講生は3500名を越えました。未来を担う高校生が多様な学習の場を得、学力を確保し高めていくことは復興に直結する課題です。立命館大学教育研究・研修センター、一般社団法人学習評価研究所が中心となり、授業や講演などを企画し、東京大学医科学研究所・上昌弘研究室、星槎グループ・公益財団法人世界子ども財団の支援の下に運営しています。2015年度は相馬高校1年生

を対象に進路講演会として開講しました。以下に各講座に対する生徒と学年担任団の感想を添えます。生徒のアンケート評価は「とても良かった＝48.6%」、「良かった＝36.4%」でおおむね好評でしたが、今後さらに改善が必要だと感じています。講座を盛り上げてくれた講師のみなさんと生徒たちに改めてお礼を申し上げます。

7月 立命館大学文学部教授本郷真紹「日本古代史の虚像と実像—学習と学問の違い—」。これまで黒板に書かれたことをただ書き写すことに、疑問を持つことはなかったが、教科書には5%の嘘が書いてあると聞いて驚いた。学問と

学習についての説明は進路選択の視野を広げてくれた。

9月 慶應義塾大学文学部教授斎藤慶典「死の話をしてよ
一代わりのなさや理由のなさ」。死について考えること
が「生きる」ことを考えることになり、私自身の存在が奇



跡だという考えにつながった。今までこんなに深く掘り下
げて考えることはなかった。「考える」という行為に対す
る印象が大きく変わった。

10月 国際教養大学キャリア開発センター長三栗谷俊明
「30年後のあなたへ」。情報技術や人工知能の発達に伴っ
て、現在まだ存在しない職に就く人がたくさん出るという。
将来の生活や自分の役割などを考えるよい機会になった。
「You Only Live Once」という言葉が心に響いている。

12月 (株)フィールド&マウンテン代表山田淳「エベレス
トへの軌跡」。過酷な環境で挑戦し続ける姿に圧倒された。
いろいろなことに挑戦することが大事で、失敗することで
成長できることを教えてくれた。自分も何か一つ熱中でき
るものを見つけて、そこから学びたい。

(学習評価研究所 松浦三郎)

担任団から

経験豊かな先生方から専門性の高い内容を、高校
生にもわかるように丁寧にお話頂いたこと、大変
感謝しております。様々な知識や経験に裏打ちさ
れた各先生方の話は、時に熱く、時に軽妙であり、
生徒ばかりではなく、我々教員も思わず引きつけ
られる場面もありました。今でも時折、担任達の
中で、講演会の内容を話題にすることがあります。

世界こども財団 第一回活動報告会を 開催しました



世界こども財団は2015年5月に内閣総理大臣よりそ
の活動実績を認められ、公益財団法人としての認定を受け
ました。当財団の活動について、多大なご支援をいただ
いている皆様にご報告をするとともに、懇親を深める機会と

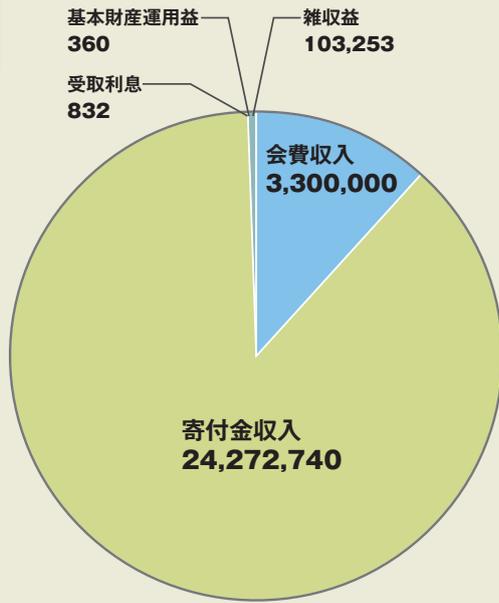
するため、2015年9月11日、大磯プリンスホテルにて
第1回活動報告会を開催し、約60名の方々にご出席い
ただきました。報告会では当財団のこれまでの歩みを振り
返るとともに、今後の事業展開についてご紹介とご説明を
させていただきました。また、江口理事長より支援者の皆
様へ感謝状を贈呈しました。皆様に日頃の感謝をお伝えす
るとともに、懇親を深める良い機会となりました。

今後も世界のこどもたちの笑顔をつくるため、関係者一
同気持ちを新たに尽力して参ります。引き続き、ご支援の
ほどよろしくお願ひ申し上げます。(FGC 石井洋祐)

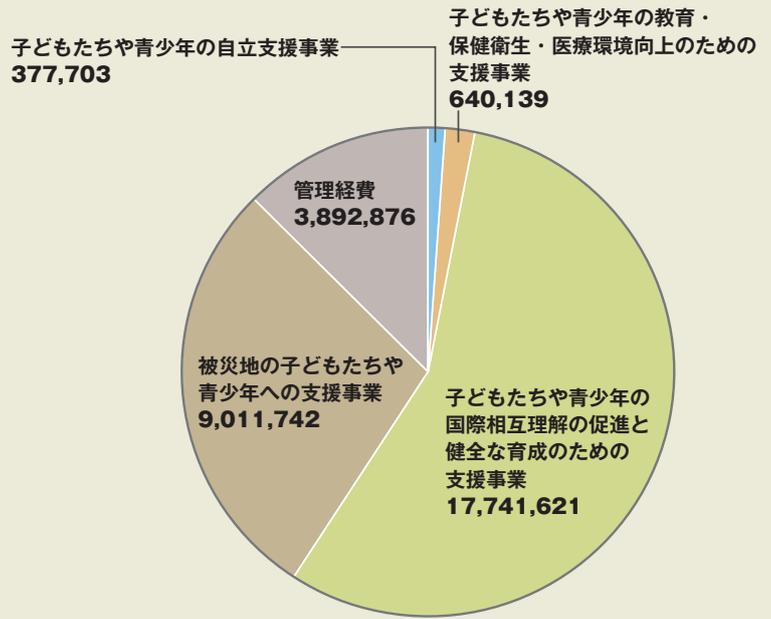


事業活動収支報告 (2015年5月12日～2015年12月31日／単位：円)

収入【27,677,185円】



支出【31,664,081円】



※上記内訳は、「2015年5月12日～（公益認定後）収支報告書」に基づき算出されたものです。
 ※また、外貨現金にて1,755.00米ドルのご寄付をいただいております。年度末にレート換算し表の寄附金収入に含めております。

2015年9月～2016年1月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	69,901	書籍販売 収支差額より	200
		茶綿手ぬぐい販売 収支差額より	8,500
櫻井幸雄氏作カレンダー販売 収支差額より	23,500	加藤登紀子様 ほろ酔いコンサート2015 チケット売上より	5,500
カード類（テレカ・図書カード・各種金券等）	16,340	自動販売機（メーカー19社）売上より	1,138,882
合計	109,741	合計	1,153,082

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

(2016年1月末)

ご協力いただいている企業・団体様（順不同） 2015年9月～2016年1月

- アマチュア無線関係の皆様 ●(株)トキコ・プランニング ●(株)矢部プロカッティング ●(株)ルミネ ●(株)ルミネクリエイツ ●(株)全日警横浜支社 ●コリッド・ジャパン ●ACCJ（米国商工会議所日本事務所） ●日本ナレッジ(株) ●(株)ポルケ ●東京大学医科学研究所 ●医療法人ほっとステーション大通公園メンタルクリニック ●フルサワ印刷(株) ●(株)ユーミーホールディングス ●道都大学 ●ブルデンシャル生命保険(株) ●全日本セキュリティ神奈川(株) ●神奈川県立がんセンター ●公益社団法人大磯町観光協会 ●アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株) ●(株)スペースクリエイター ●大磯町グラウンド・ゴルフ協会 ●(株)興学社 ●博物館江戸民具街道 ●医療法人社団 KNI 北原国際病院 ●(株)日本チャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●(株)DOE ●教育出版(株) ●(株)バリューブックス ●(株)湘南ウイル ●(株)ダイドードリンコ ●西武商事(株) ●サントリービバレッジサービス(株) ●コーシンサントリービバレッジ ●(株)八洋府中営業所 ●コカ・コーライーストジャパン(株) ●コカ・コーラウエスト(株) ●北海道コカ・コーラボトリング(株) ●東京キリンビバレッジサービス(株) ●北海道キリンビバレッジサービス(株) ●キリンビバレッジバリューベンダー(株) ●北海道ペンディング(株) ●(株)ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事(株) ●(有)安田コーポレーション ●大蔵屋商事(株) ●FVイーストジャパン ●総合受験予備校ツルセミ ●神奈川県庁 ●大磯ロータリークラブ ●大磯町役場 ●認定NPO法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

- 上から ●園児たちと交流するエリトリアのヤレド選手 ●バングラデシュ・アグラサーラ縫製工場のスタッフのみなさんと ●ネパール大震災の支援としてこどもたちに制服をプレゼント ●相双地区のサッカー交流でのこどもたち



2016年4月発行

公益財団法人 世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星槎グループ内）
 TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
 ホームページ：http://www.fgc.or.jp Facebook：「世界こども財団」で検索！
 印刷：フルサワ印刷株式会社 制作：岡村直実（JC ユニット）

